～渡良瀬遊水地～
自然紹介



2026.11.27

霜月となり、ヨシ原が一面枯色に染まってきました。この時期は植物の『タネ』が多く見つけられる時期です。今回はその『タネの散布』に焦点をあてました。タネは動けない植物にとって、いかに子孫を残せるか左右する重要なものです。遊水地で見られるタネの中で、3つの方法で散布する植物たちを紹介します。遊水地へ訪れた際には、タネたちを探してみてください。そのタネたちはどのように運ばれ、旅をするのか、してきたのか、思いをはせてみませんか。ぜひお出かけください。

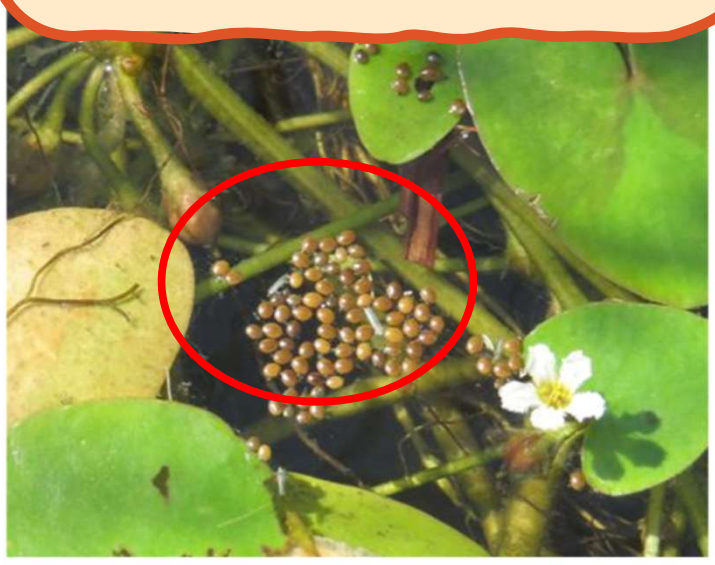
水散布

水に浮く

水の流れにのり、漂いながら新天地へ

遊水地の水辺ならではの戦略

ヒメシロアサザ
【ミツガシワ科】



7～9月に白色の小さな花をつける。
工事などで土がかき回された後の湿地に出現する。
果実は水中で熟し、まだ花が残る9月下旬頃には裂けて種子を放出する。
種子は、長さ1.2～1.3mmで強い光沢がある。つるつるとした種の表面は水をはじくようで、表面張力によって浮くようだ。

オニグルミ
【クルミ科】



河川敷などに生える落葉高木。
葉は5～9対の奇数羽状複葉。
硬い殻の内部に空洞があることで、水に浮く。
種子はご存じの通り、あのナッツのクルミ！遊水地では、生き物たちの食料にもなっている（貯食散布）。



ミズアオイ
【ミズアオイ科】

8～10月に花を咲かせ、11月には水面に果実のみが浮く。
果実は3稜のある三角錐型。果実はまるで花のように裂開し、俵型の種が放出される。しばらくは果実も種も浮いているが、後に沈下する。





果実が裂ける時は皮が反り返って種を放出します！

↑写真引用元　【渡良瀬遊水地　植物の会HP】

被　食　散　布

生き物に食べられる

色鮮やかな果実は生き物たちにとって魅力的な食糧

植物は生き物を利用して、タネを運んでもらう

消化されずに排せつされた場所で芽吹きのチャンスを狙います



シャリンバイ
【バラ科】



これらは主に
鳥が食べます！

★注意★
人間には毒です！

ツルウメモドキ
【ニシキギ科】





ヨウシュヤマゴボウ
【ヤマゴボウ科】

付　着　散　布

生き物にひっつく

トゲやかぎ状の構造で付着することで、

動物を一方的に利用し散布します

コセンダングサ
【キク科】





トゲの先には小さな
『返し』がついているので
一筋縄ではとれないぞ！



オオオナモミ
【キク科】

トゲの先はくるっと
かぎ状になっている
ことで引っかかる！



キンミズヒキ
【バラ科】